

その後の私

高校を無事に卒業して、系列校の大学編入学を専門としたコースのある専門学校に入学して編入に向けて勉強を始めました。専門学校は都内にあったので、一人暮らしをして親の仕送りをもらいながら学校に通っていました。しかし、体調が悪くなり1週間から2週間、学校に行けないことが複数回あり、とうとう一人暮らしをすることさえも難しくなったので入学後半年で退学しました。それから半年は、静養し体調（特にメンタル面）の回復のための時間となりました。ある程度体調が安定したのが19歳の夏前でした。浪人生を対象とした予備校に通い大学受験のための勉強をしました。複数受けた大学の中で受かったのは早稲田大学と玉川大学などでした。正直、早稲田大学に行きたかったのですが、体調のことを考えると難しかったです。退学はしたくない。玉川大学は比較的通いやすい場所だったので玉川大学に入学しました。

玉川大学の主に哲学・倫理学・心理学・教育学を学べる学科に入学して勉強をしながら児童養護施設の子どもと遊ぶ部活に入り、オープンキャンパスや入試などのアルバイトをしながら充実した学生生活を送りました。とても難しいことを学び考えることが多かったのですが、不登校のとき、読めそうなときに小説や新書を読んでいたのもとても好奇心をくすぐられてもっと学びたいと思うようになりました。朝6時半に家を出て朝8時に大学に着いて夜9時に大学を出て夜10時半に帰宅する生活を約2年間半続けてさまざまな本に出会い、読み、考える時間を作ることができました。

保健学や心理学を学ぶうちに「家族が子どもの発達にどのような影響を及ぼすのか」ということについて興味を持ち、家族心理学の本を手にするようになりました。家族心理学は発達心理学と密接な関連があり、その研究が活発に行われているところは、白百合女子大学大学院でした。偶然にも男性も入れるということで受験して修士課程の試験を合格して研

究を始めます。けど、修士ではやり残したことをもっとやりたいと思い博士課程に入り研究して博士号を取得しました。

私は、博士号取得までいけたのは不登校のときに少しだけでも本を読む機会を経験したからだと思っています。このときに本当にさまざまな本に出会って、それから本を読むのが苦にならなくなっていた。大学に入ると楽しくなっていったのでここまでこれたと思っています。

少しでも同じ経験をしているんだなと感じてくれると幸いです。ここまで読んでくださりありがとうございました。

完